

秋葉区

まん 満 日にち

お宝散策マップ





編集・発行 満日コミュニティ協議会
平成 28年 8月



1 満日小学校 (七日町)

新潟市立満日小学校は、明治6年(1873年)3月12日、第七中学校第十番小学下新校附属公立満願寺校と称して、集落戸長石川哲太郎宅を借りて開学しました。明治5年8月に学制発布されてから時を移さず対応した先達者たちの熱意が伺われます。その後の激動社会の変遷と教育制度の改正等を経て平成28年3月には創立143周年を迎えました。



2 新津第三中学校閉校記念碑 (七日町)

村部に中学校を配置する方針に基づき、満日地区に新津第三中学校が設置されることとなり、昭和26年7月に開校。以降44年間に1,800余名の卒業生を輩出しましたが、生徒の減少から平成7年3月に新津第五中学校に統合、閉校記念碑として跡地に建立されたものです。



3 癒しの福祉ゾーン (七日町)

癒しの福祉ゾーンは、新潟県園芸試験場跡地(昭和56年聖籠町に移転)に福祉関連施設等が集積するゾーンとして設定され、周囲を田畑に囲まれた自然豊かな環境の中で互いに連携を図りながら福祉サービスが提供されています。ゾーンには、次のような施設があります。



- 特別養護老人ホーム** はさぎの里
入所支援、ショートステイ、デイサービス、居宅介護(ホームヘルプ)
- 障害者福祉サービス事業所** けやき福祉園
生活介護、就労継続支援B型、福祉移行、日中一時
- 障害者支援施設** 満日里
施設入所支援、生活介護、ショートステイ、日中一時
- 自立支援センター**
まんいち(満日の里内)
居宅介護(ホームヘルプ)、福祉有償輸送(移動支援、行動援護等)
- 障害福祉サービス事業所** けやき福祉園
生活介護、就労継続支援B型、福祉移行、日中一時
- 障害福祉サービス作業所** ぶどう工房
就労継続支援B型、日中一時
- 新津B&G海洋センター**
体育館、プール、テニスコート、運動広場
- 新津地区グリーンセンター**
農業者調理施設、果樹栽培研修施設

4 阿賀野川と満願寺集落の移転 (満願寺)

阿賀野川は、馬下地先から海までの約35kmは極めて平坦となることから乱流し、洪水の度に氾濫し、特に大正2年8月の大洪水では大きな被害を受けました。これを契機として國の直轄河川として本格的な治水事業を行うこととなり、大正4年度～昭和9年度までの継続事業(第1期改修工事)を実施。主として洪水防御を目的として、川幅整理、堤防補強、無堤地の築堤、掘削・浚渫による河床の確保が行われ、ほぼ現在の河況が形成されました。この際、満願寺地先においては排水路(溝曲部をショートカットした水路)及び新堤防(引堤、高上り等)工事が行われ、当時の満願寺集落のほとんど(戸数115戸のうち107戸と神社仏閣等)が移転の対象となり、大正5年11月～大正6年9月に民営が、大正7年9月に観音堂・仁王門、12月に神明宮が現在地に移転しました。



5-1 隆田山錦繡寺 (七日町)

寛永のころ地蔵庵と称する小庵があった、沢海大栄寺二世金宗和尚がこの地蔵庵に寄ぐうして禅学修養の道場としました。慶安2年(1649)に二世全宗和尚が金百両、田畑4町1反歩を寄進され金鑪寺を創設して大栄寺を隠居。後の九世鉄杖純牛和尚のころ、錦繡寺と改め今日に至っています。天保10年(1839)に本堂・庫裏を焼失するも、弘化3年(1846)に本堂、嘉永6年(1853)に庫裏が再建されました。昭和53年には庫裏を改築、平成7年に禅堂を改築、平成20年には参道の改修が行われました。



5-2 帆刈姓の由来 (七日町)

始祖、帆刈内匠は、鯨形城主北条安房守氏邦の第二子であり、文禄元年(1592)6月豊臣秀吉より命を受けた上杉景勝に従って朝鮮に出兵。その途中で大暴風雨に遭い、木の葉の如く揺れ動く「小鷹丸」他6隻の船を危険と察知するや、北条内匠は大声を發し、帆柱に登り帆を刈り降ろし転覆を免れました。上杉景勝は内匠の勇敢にして且つ機敏な行動に対し深く感賞し、帆刈氏の称号を与え銘刀一振り(信国作)を授けられました。銘刀並びに鑑は金沢市の大乗寺で、帆刈代太氏により発見された後、帆刈三代太氏により始祖の眠る菩提寺に御寄進されました。



6 満願寺稲架木並木 (満願寺)

満願寺の稲架木並木は、直線道路の両側に約1,000本のも木が整然と並び植えられており、1,000mにも及ぶ並木となっており、稲架木にたも木や「はんの木」を植え、稲を架けて乾燥させるために利用されたものです。昭和18年(1943年)～昭和20年(1945年)にかけて同地区の水田約250haを土地改良(区画整理)したときに、点在する稲架場を関係する農家26軒が協力して農道沿いに集約し、稲架場を移植して並木となったものです。農業の機械化で籾の機械乾燥が広く普及し、不用となった稲架場が次々と消滅していきましたが、同地区は稲穂採取地の指定を受け農家の稲穂を採るために自然乾燥に必要な稲架場が残され、指定が解除された後も所有者と農家組合が保存に努め、新津の風物詩として新潟市指定文化財として保護されています。



7 西園山満願寺 (満願寺)

上杉家老千坂家を嗣いだ満願寺仙右衛門の一族である石川与次右衛門が仏門に入り、天和元年(1681年)に道場建立。上洛して法主に帰依したのち帰国し、阿弥陀如来(木像一東本願寺より免許)を本尊として迎え、宝永7年(1710年)12月8日に再興、その後延享3年(1746年)に再建されたものです。

